



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

今年度から、Web サイト湘北 SDGs を開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Web サイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。



Web サイト湘北 SDGs ↑
最新のニュースは「取り組み」から、第 1 号から第 6 号は「ニュースレター」にてご覧いただけます。

【この授業に関連する SDGs】



湘北 SDGs

保育学科特集

Think Globally, Act Locally.

2023 年度 第 1 号

(通算第 7 号)

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学 生活プロデュース学科

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

【授業紹介】他国の教育システムについて学ぼう (2023 年 6 月 9 日)



保育学科の保育実践研究（田中ゼミナール）の授業は、6 月 9 日（金）に特別講師としてロシア人の Adel Regal さんをお招きし、オンラインで「Comparison of Japanese and Russian Education Systems (Nursery and Kindergarten)」をテーマにお話し頂きました。インド人の旦那様と 9 歳になる娘さんを日本で育てていらっしゃる Adel さんは、教育学の修士号をお持ちでインターナショナルスクールの教師でもあり、日本で子どもを育てる保護者でもあり、多彩な経験をお持ちの方です。

講演の中では、まずロシアと日本の教育システムやカリキュラム、教育方法の類似点と違いについて学びました。例えば、ロシアでは 3 歳から 7 歳の幼稚園が義務教育であること、芸術的な科目に力を入れていること、カリキュラム自体が柔軟で個性や個人の表現が大切にされる傾向があること等を学びました。一方で日本の教育との類似点も多く、ロシアでも幼稚園では幼児期の発達を促すために、遊びや歌唱やダンス、工作などの活動や屋外での運動などが大切にされていました。またサークルタイムなど子ども同士の関わりを大切に、社会性の育成も大切にされていることを学びました。途中リラックスタイムとしてロシアの幼稚園でよく遊ばれているゲームをチーム対抗で行い、盛り上がりしました。



授業は全て英語で行われ教員の通訳で進行しましたが、写真や具体的な事例を多く挙げて下さり、学生は十分に理解できたようです。「他国の教育との類似点と相違点を学ぶことで、多様な幼児教育のアプローチについて考えることができるのであって、そのことは地球上の全ての子どもたちに能力に関係なく包括的で有益な環境を提供するための支援に繋がります。」という Adel さんからのメッセージが印象的でした。

（保育学科 田中あかり）



【授業紹介】 保育者と SDGs (2023 年 7 月 6 日)



保育学科 2 年生必修科目「教職概論」の授業では保育者に求められる資質能力という観点から SDGs を取り上げました。保育現場での SDGs 取り組み事例や新聞記事を用いて、SDGs 保育とはどのようなものなのか、考えてもらいました。

学生の皆さんからは「実習先での保育が実は SDGs の考えに繋がっていることが分かった」「製作で使うプラスチックのストローを自然 由来の代替品に変えることは現実的には難しいのではないかなど、さまざまな声が挙がりました。この授業を通して、保育者という立場から少しでも SDGs に関心を持ってもらえればと思いました。(保育学科 大川 なつか)



【授業紹介】 生物多様性について学びました (2023 年 7 月 14 日)

保育学科 1 年生の授業「環境の指導」は幼児教育の 5 領域のひとつである「環境」についての授業です。「環境」領域では子ども達が「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ」ことなどをねらいとし、授業では自然環境、物理的な環境、社会文化的な環境と子どもとの関わりについて学びます。

なかでも小さな生き物や植物などの自然と子どもとの関わりは子どもの成長にとって切り離せないものです。授業では生物多様性や現在それが失われつつあるという知識を得るために生物多様性の解説動画や、6 月に改正された特定外来生物に関する法律のニュースを視聴し、保育者の卵として必要な知識を得ました。

(学生の感想)

「生物の多様性の動画を見て、自然というのは私たちの暮らしの中にあるだけでなにも影響を与えていないように見えて、実は私たちの生活に大きく大切な影響を与えていることがわかりました。

また、生物の多様性というのは全ての生き物がもっている「個性」と「つながり」のことで、私たちが日頃から自然と共に暮らしていくには人間による自然破壊をなくし、一人一人が自然と共存していくという意識をもっていることが大切なのではないかと思いました。

保育をしていく中で保育者から子どもたちに自然の大切さ、壮大さ、素晴らしさを共有していくことが次世代の子どもたちが生物の多様性を理解していくキッカケになるのではないかなと思いました。」(保育学科 亀井美弥子)



【授業紹介】 保育の中のジェンダー問題 —隠れたカリキュラムの観点から— (2023 年 8 月 1 日)



保育学科 1 年生の必修授業「保育の心理学」では保育者が意図する・意図しないにかかわらず保育を通じて子どもたち自らが学び取っていく全てのこと (= 隠れたカリキュラム) の一例としてジェンダー問題を取り上げました。

学生たちには、架空の子どもの名前・性別・年齢を伝えて、直感でその子専用のマークを 8 種類の果物の中から選ぶように伝えました(保育現場では自分の持ち物などを子どもたちが把握しやすいように決まったマークを使用することがよくあります)。その結果、女兒では暖色系の果物が、男児では寒色系の果物が明らかに多く選ばれていることが確認されました。

ジェンダー平等実現のために保育現場で多くの配慮がされている一方で、隠れたカリキュラムとして私たちの中に残る意図しない、無意識のジェンダー意識について考えてもらいました。

学生たちからは、「男の子だから、女の子だからというような考えは良くないと思っていたのに、自分のマークの選び方は性別によって左右されていた」、「無意識に男の子はこう、女の子はこう、ということが自分の中に染みついていることに驚きました」、「無意識を意識できるようになるとよいと思いました。」「無意識の保育士のかかわり、とても難しいけどとても大切なことだと感じました」、「隠れたカリキュラムの話がおもしろかった。本当に隠れていたから、自分も気づいていない話ばかりではとった。気づいていないことに気付くのはとても難しいことだと知った。」、「その子の個性を大切にしたい保育ができる保育者になろうと改めて思った」といった感想が寄せられました。(保育学科 照井裕子)

子どものマークを決めてみよう！

いとうあかねちゃん(女の子6か月)

すなはたらろう君(男の子10か月)

